

# 北おおさか信用金庫本店

地域とともに発展する環境配慮型エコオフィス

- 所在地：大阪府茨木市西駅前町
- 用途：信用金庫、事務所
- 敷地面積：2,917.65 m<sup>2</sup>
- 建築面積：1,692.23 m<sup>2</sup>
- 延べ面積：9,019.83 m<sup>2</sup>
- 構造：鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造
- 階数：地上7階
- CASBEE 評価：S ランク / BEE 値 3.1
- 重点評価：CO<sub>2</sub> 削減 4.0 / 省エネ対策 4.1  
みどり・ヒートアイランド対策 3.0
- 建築主：北おおさか信用金庫
- 設計者：株式会社梓設計

## 【立地、周辺環境】

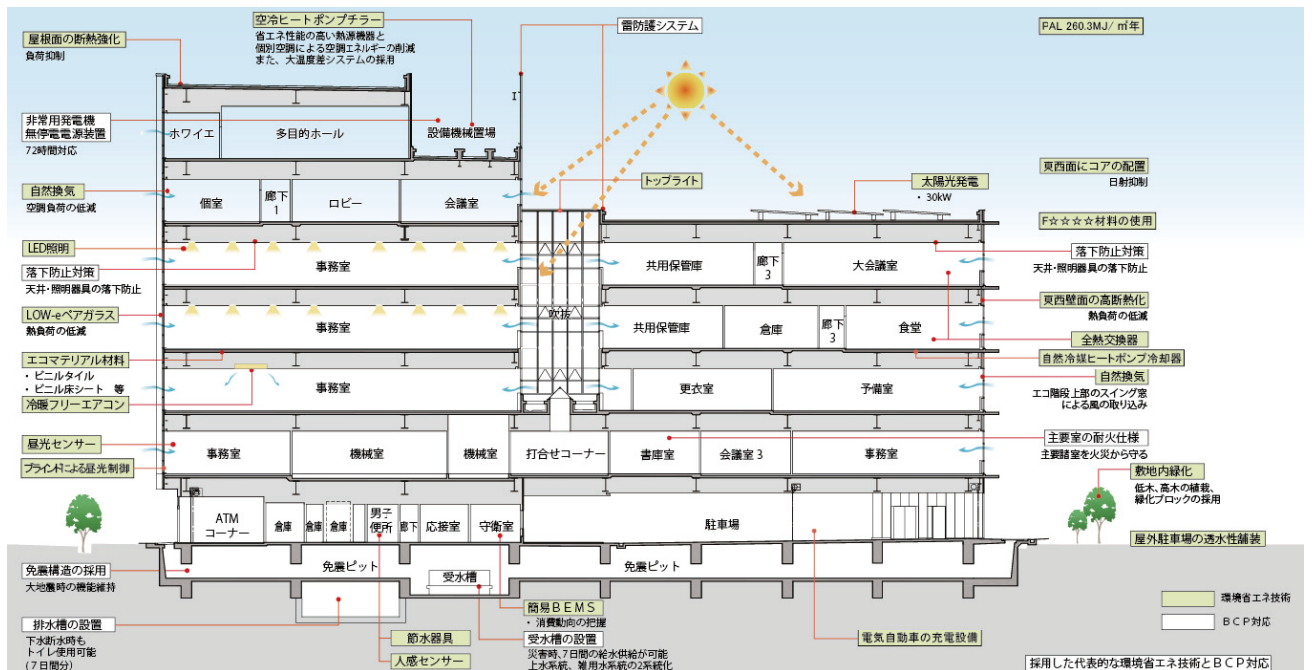
敷地は JR 茨木駅の西側に位置し、万博記念公園へ抜ける駅前通り（通称エキスポロード）に面した立地である。周辺は商業地域であり、敷地北側の駅前通り沿いにはオフィスビル、マンション、金融機関の店舗が並んでおり、敷地の南側は住居系地域である。また大通り側は高さが 31 m、南側の住居系地域は 22 m の高さ規制のある高度地区となっている。

## 【総合的なコンセプト】

大阪北部を地盤とし 78 店舗を展開する金融機関の本店建物であり、1 階に本店営業部、2～6 階に本部機能、7 階に多目的ホールを備えている。質素で堅実な企業カラーを、石張りの重厚感（900 ピッチで 350mm 幅の石ルーバーで適度に視線を遮る）と、ガラス張りの開放感（カーテンウォールで自然光や通風を確保）で表現している。また地域に根差した金融機関として、災害時にも資産を守り事業を継続できる体制（事業継続計画）を重視し、免震構造の採用、72 時間分の非常用発電機設備、7 日分の給水設備と排水設備を備えている。



## 建物断面構成図



## 環境配慮事項とねらい

## ●周辺環境との調和

- JR茨木駅の駅前通りに面した敷地で周辺建物とスカイラインを揃えるため、建物高さを31mに抑え調和を図っている(図1)。東西両隣がマンションのため、東西面は最低限の開口部に留め、周辺建物との共存を図っている。また信用金庫の拠点である本店建物のため、敷地内で業務を継続しながら、愛着ある土地を離れずに建物の建て替えを行った。

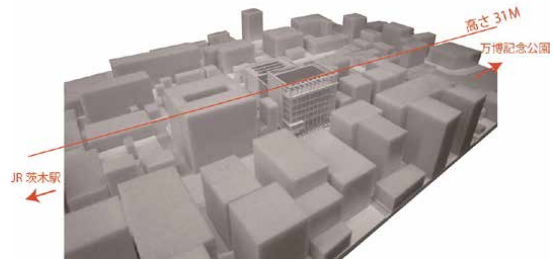


図1：スカイラインを揃えた建物計画

## ●環境に配慮した平面・外装計画

- 建物の熱負荷抑制のため、負荷の大きな東西面にコアを配置し、外壁には開口部面積を最小限に抑えたポツ窓のPC壁、日射抑制のための縦ルーバーを採用している。北面は全面カーテンウォールに自然換気ユニットを組み込み、南面と中央外部吹抜は腰上の横連窓サッシから主要な採光・通風を確保している(図2.4)。また免震ピットの断熱を強化し、屋上には空調機器や太陽光発電パネルを設置、LowEガラスの全面採用により、建物全体でペリメーターの熱負荷低減の工夫を行っている。
- 東西18m幅の無柱の執務室は、フレキシブルで見通しのよいオフィススペースとしている(図2.3)。天井高さは2.8mを確保し、各階にリフレッシュスペースを設け、働きやすい環境づくりを行っている。荷重のゆとりとして事務室部分で一部床荷重を7800~9800N/m<sup>2</sup>確保し、将来の室用途変更等に柔軟に対応可能な仕様としている。

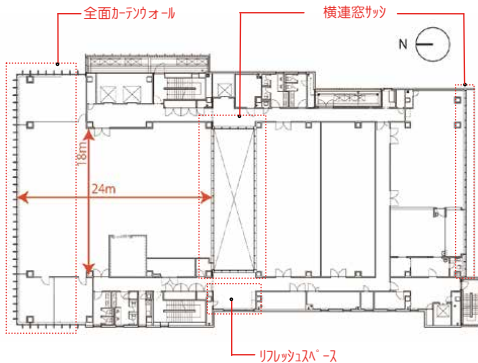


図2：基準階平面図

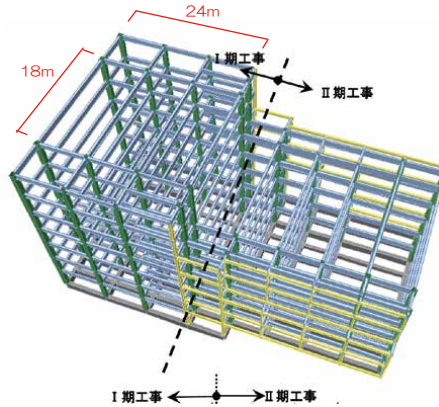


図3：構造架構バース

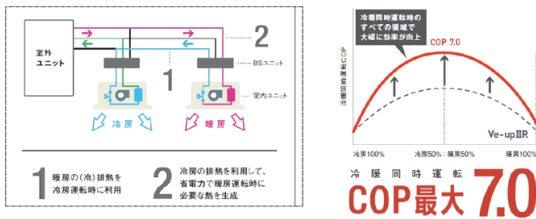


図4：PC壁の東側立面

## ●主な環境省エネ技術

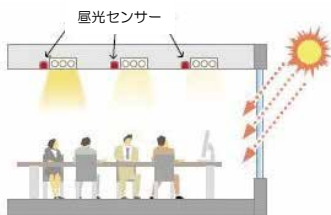
## 冷房暖房同時型エアコン

冷房・暖房の同時要求を満たし、快適性を損なわず、冷暖房時の熱回収により、省エネ性を確保している。



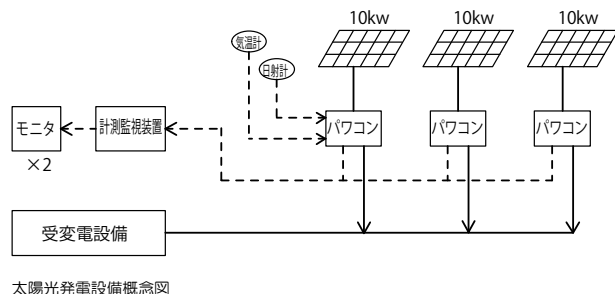
## 屋光利用制御

自然エネルギーである屋光を利用し、適切な照度を確保しながら照明エネルギーの削減をしている。



## 太陽光発電システム

屋上に太陽光パネル(30kw)を設置することで屋上面への日射を遮断し断熱性能を向上させると共に、発電電力の有効利用を図っている。環境への関心・理解を深める為、1Fエントランスに表示装置を設置し、発電状況、電力使用状況が一目でわかるようにしている。



太陽光発電設備概念図

## ●人とビジネスを守る防災・BCP対策

災害時にも資産を守り事業を継続できる体制(事業継続計画)を重視し、免震構造の採用、72時間分の非常用発電機設備、7日分の給水・排水を確保した。